

## 長寿企業であるための 伝統の継承と革新の継続。



貞徳舎の主力製品は、セラミックス素材を駆使した電気炉向け各種加熱ヒーターの開発・製造へと、大きく進化を遂げた。現在では、ほぼ理想的な電気炉加熱ヒーターともいえるNSS型・PISR型、及びNew PISR型ヒーターを開発し、製造販売している



モチベーションアップになる事業として展開に力を入れています。

**中川** 戦前の1935年頃には、ねじ切り装置「中川式英米螺旋装置機」を自社開発しており、長い歴史の中ではメーカーだった時期もあったんです。本業をしっかりとしながら、第二創業的な部分も必要と考え、自社技術を最大限活かして提供できるものとしてワイングラスを開発しました。100周年を機に、再びメーカーになれたという、自己満足も多分にあります。

——BtoCに関してプロモーションもされていますか。

**原** 僕は義理の父が当社の社長に就任して、その後を継ぐ形で社長になりましたが、以前はIT系のデザイン会社で働いていました。製造業に関して素人の僕ができることは、ネットを使った発信で、それを見て新聞やテレビに取材に来ていただく。

**中川** 今日着ているポロシャツはユニフォームですか？

**原** そうです。入社してすぐユニフォームを変えました。若い人にカッコいいと思わせることが必要なと思って。背中に筆文字で「職人魂」と入れていて。

### 顧客のニーズ、時代の価値観に敏感に対応する。

——自社がなぜ、長く続けることができたとお考えですか。

**北村** 世の中の変化は早く、特に工業用品は10年サイクル。常に先を読んで、顧客が求めるニーズを把握し、それに基づいた製品を提供する。工業製品は不要となれば需要はゼロになるし、逆に没になった提案が復活することもある。だからものづくり企業は、取捨選択と決断が重要です。不採算部門は切り捨て、技術と効率UPという方向に持っていく、次の世代につないでいく。さらにそこには、若い力と自由な発想がないと続かない。

**中川** 「一度つながった顧客には、とことん義理人情は果たせ」というのが先代からの教えでしたが、当社ではリーマンショックの頃と今とは顧客が約7割変わりました。なぜかという先方も価値観が変わってくるからです。そういった時代の価値観に敏感に対応して、多くの会社とビジネスができるWin-Winの関係を築き、信頼関係を持てるかに尽きます。

**原** 本業に向き合いながら、自社でできる事業の柱を何本持つかが重要。うちは前社長（現会長）が就任してからの10年で、2つも新しい柱を生み出しています。前社長はガラス会社にいたアイデアマンで、スーパーカミオカンデ内部のガラスバルブの開発にも関わった技術者なので、これを一つの柱に。そして耐火煉瓦、それもバーナータイルという

ニッチなところを攻めて。一本が倒れてもこっちとやってきたから、続いているのだと思います。

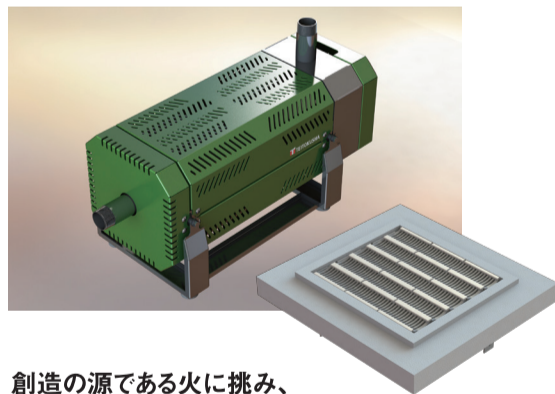
——社会のニーズ、変化する市場や顧客に目を向け、しなやかに変革して企業として永続してきたということですね。最後に今後の展開についてお聞かせください。

**中川** 技術者の復権を目指したいですね。社員たちを見ると、ものすごく頑張っているんですよ。彼らに社会的な評価を与えていただき、結果としていい生活をさせてあげたい。同時に当社では「Made in OSAKA, JAPAN」にこだわっているの、日本でつくるものの付加価値をもっと上げていきたいですね。

**原** 僕はこの会社に入って、まず時間軸の単位が違うので驚きました。ITの世界で「このあいだ」といえば一週間、長くて半月。でも今いる世界では「半年」を指す。ひとつの製品をつくり上げるのに3〜4ヶ月かかるからです。うちの会社でできるのは、時間をかけて一人の職人が手づくりでひとつの製品をつくること。これを後世につないでいきたい。

**北村** お二人の意見にまったく同感です。私たちがつくっているのは、大量生産できるものではない。だから製品に付加価値を持たせないと、社員にリターンできない。基本的な理念だけはそのままに、今後も変えられることはどんどん変えていく。それがなによりも大切です。

### TODAY'S MEMBER



#### 創造の源である火に挑み、 火と熱で世の中に役立つことを追求。

創業以来、125年以上にわたり一貫して火と熱エネルギーを有効に活かす手段を模索してきた貞徳舎。耐火煉瓦から一般耐火断熱材、そして、現在主力の工業用電熱ヒーターと製造品目の幅を広げながら発展してきた。約30年前から、セラミックス素材を用いた電気炉向け各種加熱ヒーターの開発製造が主となっている。長い経験で培ったセラミック製造に関する材料特性の知見や技術を基に、顧客の要望に対して素材やその組成から検討する。ヒーターはさまざまな用途での経験を活かして、均熱性に優れた部材の配置設計をおこない、自動車をはじめ広く使用されている。

「大阪ものづくり優良企業(匠)」認証企業(2017年)

#### 貞徳舎株式会社

大阪市城東区新喜多 1-5-32  
TEL 06-6933-5000 <http://www.teitokusha.co.jp/>



#### ものづくり立国 NIPPON の 根底を支える心意気。

精密機械部品の製造メーカー。汎用旋盤加工から立ち上がった経緯もあり、昔ながらの汎用機を駆使して加工できるエンジニアの養成に力を入れている。現在も「職人的加工技術と最新のNC加工技術の融合」を基本方針に、旋盤加工とマシニング加工の複合加工を得意領域とし、試作や開発品も含めて受注生産品の高精度の部品加工に対応。ステンレス、チタン、インコネルなど難削材小物の旋盤機械加工で、理化学機器部品、メカニカルシール部品、原子力部品、半導体製造装置部品、車輛部品、航空機部品などの製造をおこなっている。

「大阪ものづくり優良企業(匠)」認証企業(2008年)

#### 中川鉄工株式会社

大阪市城東区関目 2-5-17  
TEL 06-6939-8519 <http://nakagawa-iw.com/>



#### 手積み技術を継承する 国産シェア No.1 の坩堝メーカー。

耐火煉瓦の製造でスタートし、その後はじめた坩堝の製造において、国内に2社のみとなった手積み技術を守る老舗。長年の製造経験に基づいた製品の品質の高さには定評があり、顧客からの信頼は絶大だ。近年は坩堝の製造のみならず、特注の異形耐火物の製造やガラス溶融用坩堝に加え、貴金属溶解用坩堝、さらにはインド料理で使われるタンドール窯を業務用から家庭用まで製造するなど、事業の幅を広げている。またこれまでに培った歴史ある技術の継承に注力しており、若い職人を積極的に採用・育成し、手づくりの技術を伝えている。

#### 株式会社奥村坩堝製造所

大阪市東成区中道 2-13-14  
TEL 06-6972-2387 <http://www.okumurarutubo.co.jp/>